

平成27年2月17日

平成26年度病害虫発生予報第11号

長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
きゅうり	べと病	やや少	やや少
	うどんこ病	やや少	やや少
	褐斑病	少	少
	菌核病	並	並
	灰色かび病	並	並
	ミナミキイロアザミウマ	やや多	やや多
	コナジラミ類	並	並
トマト	黄化葉巻病	やや少	やや少
	灰色かび病	やや少	やや少
	コナジラミ類	やや少	並
いちご (本圃)	うどんこ病	並	並
	灰色かび病	並	並
	アブラムシ類	並	並
	ハダニ類 (注意報第9号継続)	多	多
たまねぎ	べと病	並	並
	白色疫病	並	並
	ネギアザミウマ	並	並
ブロッコリー	黒腐病	やや少	やや少
	べと病	並	並

【発生予報】 本文の ( ) 内は平年値

きゅうり

1. べと病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は2.6%(3.9%)、発生圃場率は16.7%(34.6%)であった。

2. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は1.6%(6.5%)、発生圃場率は58.3%(61.5%)であった。

### 3. 褐斑病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率1.9%、発生圃場率31.7%)。

### 4. 菌核病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率1.1%)。

### 5. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率2.1%)。

### 6. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は2.3%(0.5%)、発生圃場率は25.0%(10.6%)であった。

イ 向こう1ヶ月の気温は平年並か高い見込みであり本虫の発生に好適である。

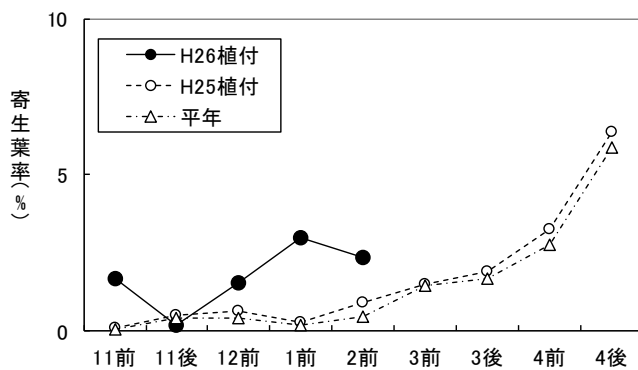


図 きゅうりのアザミウマ類 寄生葉率の推移

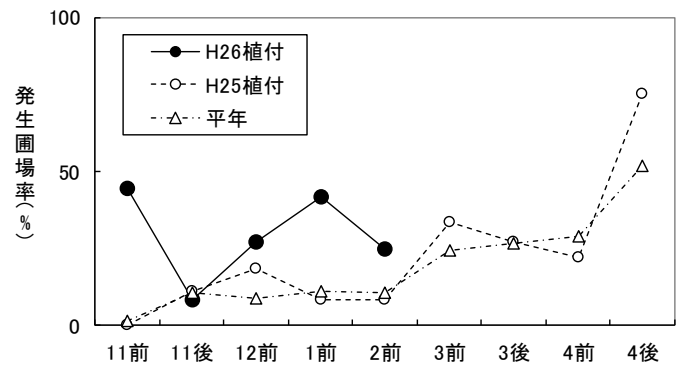


図 きゅうりのアザミウマ類 発生圃場率の推移

(3) 防除上すべき事項

- ア 施設内および周辺の雑草は本虫の増殖源となるので除去し、環境衛生に努める。
- イ 発生が多くなってからの防除は困難であるため、早期発見・早期防除に努める。特に本虫は黄化えそ病を媒介するので初期防除に努める。
- ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。
- エ 栽培終了後に施設の開口部を7～10日以上密閉して本虫を死滅させ、施設外への分散を防ぐ。

## 7. コナジラミ類

### (1) 予報内容

発生程度 並

### (2) 予報の根拠

ア 2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は1.1%(1.1%)、発生圃場率は25.0%(18.9%)であった。

イ 向こう1ヶ月の気温は平年並か高い見込みであり本虫の発生に好適である。

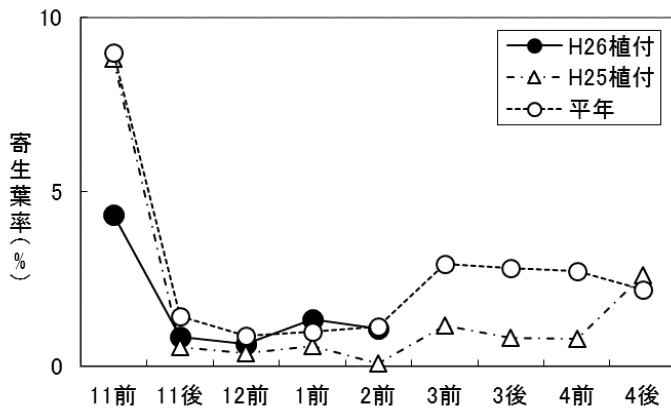


図 きゅうりのコナジラミ類 寄生葉率の推移

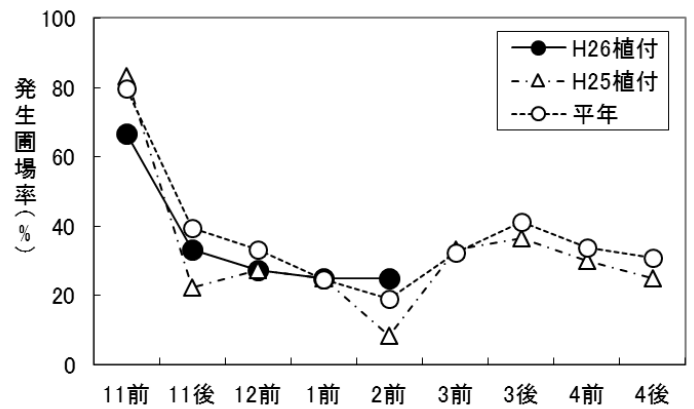


図 きゅうりのコナジラミ類 発生圃場率の推移

### (3) 防除上注意すべき事項

ア 施設内の雑草は、本虫の増殖源となるので除草を徹底する。

イ 本虫は退緑黄化病を媒介するので初期防除に努め、できるだけ密度を低くする。

ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

エ 栽培終了後に施設の開口部を7～10日以上密閉して本虫を死滅させ、施設外への分散を防ぐ。

## トマト

### 1. 黄化葉巻病

#### (1) 予報内容

発生程度 やや少

#### (2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病株率は0.1%(0.4%)、発生圃場率は16.7%(26.9%)であった。

### 2. 灰色かび病

#### (1) 予報内容

発生程度 やや少

#### (2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、果実では発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率8.3%)。葉では発病葉率は0.2%(過去2カ年平均0.4%)、発生圃場率は16.7%(同12.5%)であった。

### 3. コナジラミ類

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

ア 2月上旬の巡回調査（12筆）の結果、寄生葉率は0.2%（過去4ヵ年平均0.3%）、発生圃場率は8.3%（同14.6%）であった。

イ 向こう1ヶ月の気温は、平年並か高い見込みであり本虫の発生に好適である。

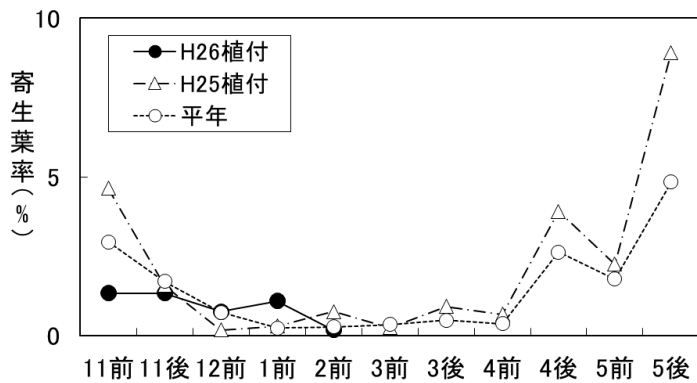


図 トマトのコナジラミ類 寄生葉率の推移

注) 平年: H22~25年の平均値

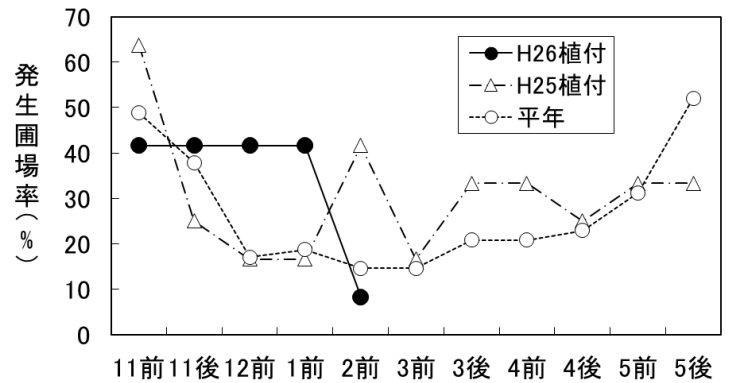


図 トマトのコナジラミ類 発生圃場率の推移

注) 平年: H22~25年の平均値

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 施設内の雑草は本虫の増殖源となるので除草を徹底する。

イ 黄化葉巻病の二次伝染を防ぐため、初期防除に努めできるだけ密度を低くする。

ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、系統の異なる薬剤のローテーション散布を行う。

## いちご

### 1. うどんこ病

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査（27筆）の結果、葉での発生を認めなかった（発病株率0.1%、発生圃場率2.3%）。また、果実での発生も認めなかった（発病果率0.0%、発生圃場率1.4%）。

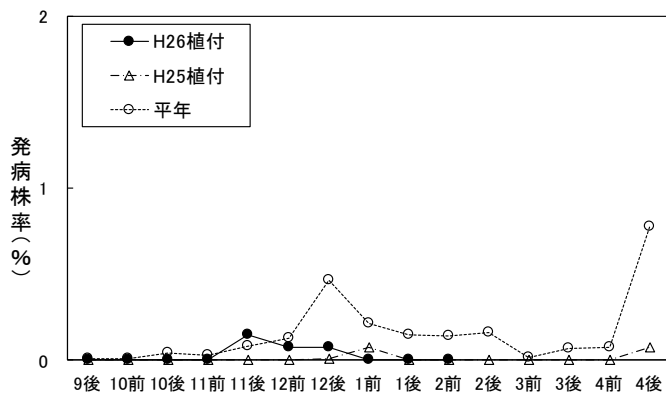


図 いちご うどんこ病 発病株率の推移

平年: H16~H25の平均値(最大・小値除く)

ただし、12/下、1/下、2/下はH19~H25の平均値

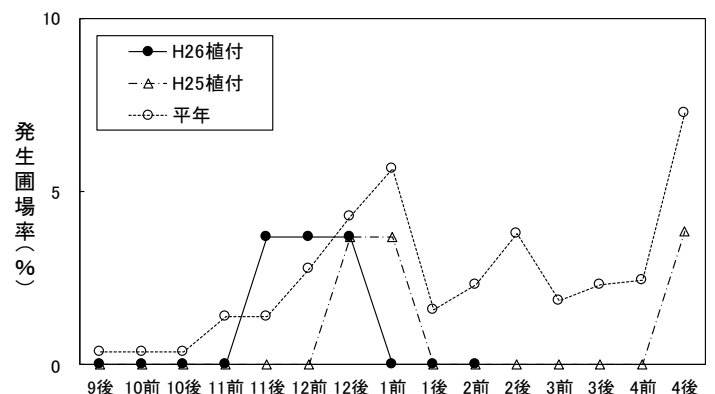


図 いちご うどんこ病 発生圃場率の推移

平年: H16~H25の平均値(最大・小値除く)

ただし、12/下、1/下、2/下はH19~H25の平均値

## 2. 灰色かび病

### (1) 予報内容

発生程度 並

### (2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病果率は0.0%(0.1%)、発生圃場率は14.8%(14.4%)であった。

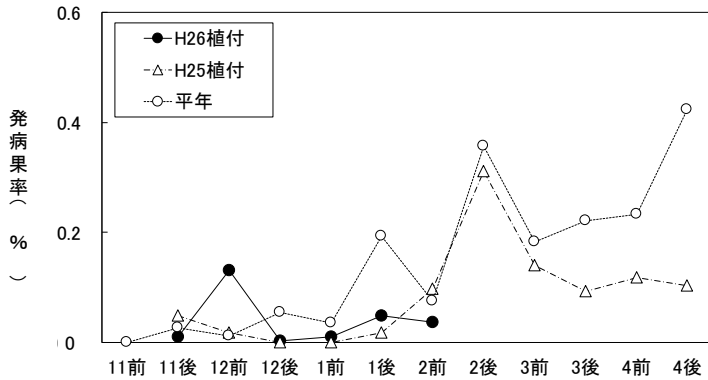


図 いちご 灰色かび病(果実) 発病果率の推移  
 平年:H16~H25の平均値(最大・小値除く)  
 ただし、12/下、1/下、2/下はH19~H25の平均値

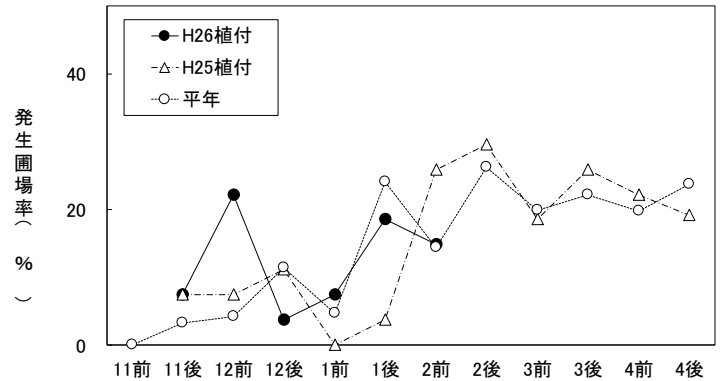


図 いちご 灰色かび病(果実) 発生圃場率の推移  
 平年:H16~H25の平均値(最大・小値除く)  
 ただし、12/下、1/下、2/下はH19~H25の平均値

## 3. アブラムシ類

### (1) 予報内容

発生程度 並

### (2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は0.7%(0.6%)、発生圃場率は11.1%(9.7%)であった。

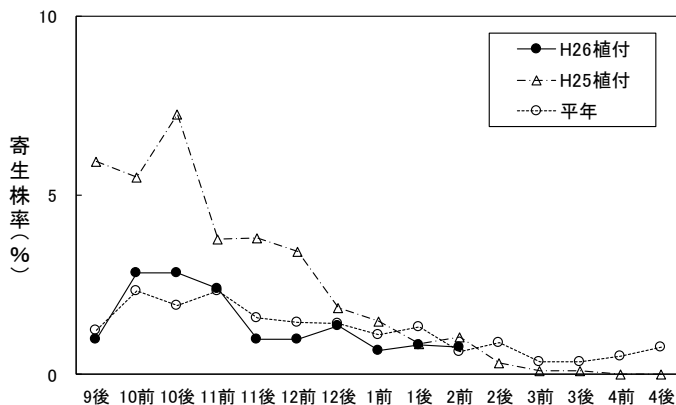


図 いちご アブラムシ類 寄生株率の推移  
 平年:H16~H25の平均値(最大・小値除く)  
 ただし、12/下、1/下、2/下はH19~H25の平均値

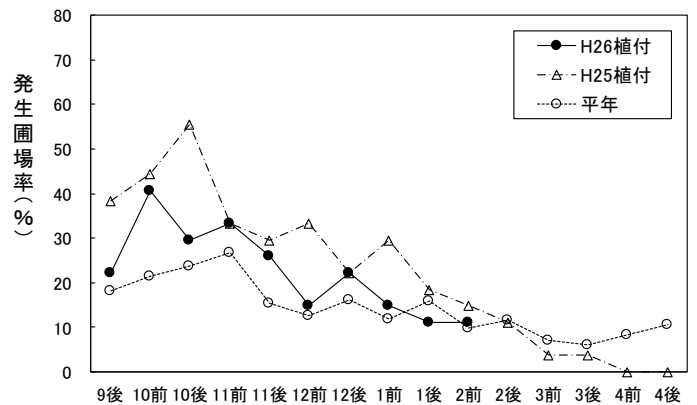


図 いちご アブラムシ類 発生圃場率の推移  
 平年:H16~H25の平均値(最大・小値除く)  
 ただし、12/下、1/下、2/下はH19~H25の平均値

#### 4. ハダニ類

平成27年2月2日付け**病害虫発生予察注意報9号**を継続。なお、その後の発生状況は以下のとおりである。

##### (1) 発生状況等

ア 2月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は10.6%(4.1%)、発生圃場率は51.9%(34.7%)であった。

イ 向こう1か月の気温は平年並か高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

ウ 病害虫防除員からの報告によるとやや多の発生である。

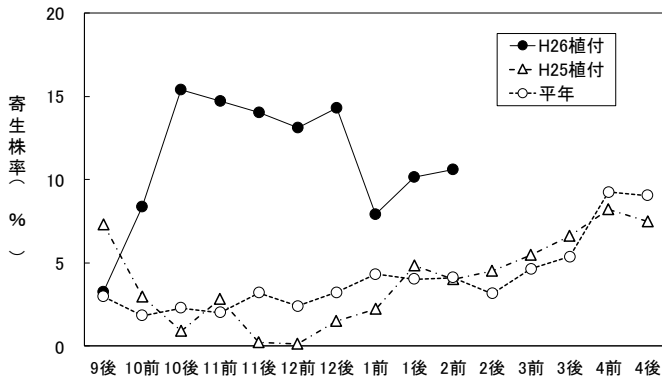


図 いちご ハダニ類 寄生株率の推移  
平年:H16~H25の平均値(最大・小値除く)  
ただし、12/下、1/下、2/下はH19~H25の平均値

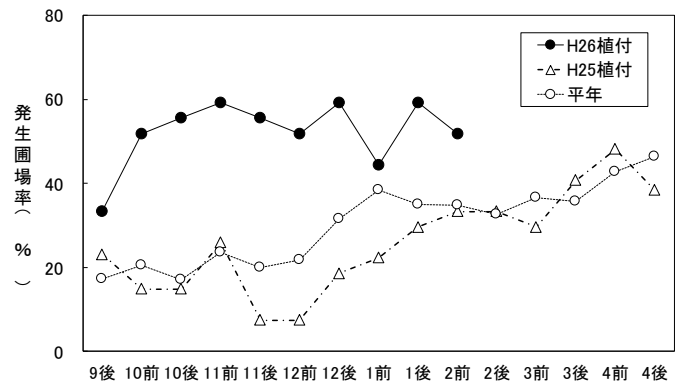


図 いちご ハダニ類 発生圃場率の推移  
平年:H16~H25の平均値(最大・小値除く)  
ただし、12/下、1/下、2/下はH19~H25の平均値

### たまねぎ

#### 1. ベと病

##### (1) 予報内容

発生程度 並

##### (2) 予報の根拠

ア 2月上旬の巡回調査(14筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.0%、発生圃場率3.3%)。

イ 2月13日に諫早湾干拓地で発生調査(9筆)を行った結果、越年罹病株が認められ、発生圃場率は22.2%(前年28.6%)であった。

##### (3) 防除上注意すべき事項

ア 越年罹病株は二次感染の伝染源として最も重要である。圃場の見回りをこまめに行い、発見したら早急に抜き取り圃場外に持ち出して適切に処分し、直ちに薬剤散布を行う。

イ 病勢が進行すると防除困難となるので、早期発見・早期防除に努める。

ウ 薬剤耐性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

#### 2. 白色疫病

##### (1) 予報内容

発生程度 並

##### (2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査(14筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.1%、発生圃場率5.0%)。

### 3. ネギアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査（14筆）の結果、寄生株率は10.9%（14.3%）、発生圃場率は53.3%（65.8%）であった。

ブロッコリー
--------

### 1. 黒腐病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査（8筆）の結果、発生を認めなかった（過去7年平均発病株率0.5%、発生圃場率6.4%）。

### 2. べと病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月上旬の巡回調査（8筆）の結果、発生を認めなかった（過去7年平均発病株率0.5%、発生圃場率8.0%）。

---

○病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病害虫防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027